

「かながわ教育ビジョン」アクションプラン

かながわ部活ドリームプラン21 versionⅢ



～自主的・自発的な部活動を通じた人づくり～

[平成27年度～令和2年度]

平成27年10月
神奈川県教育委員会

目次

1 「かながわ部活ドリームプラン21 versionⅢ」策定の趣旨	・ ・ P 1
2 部活動の役割	・ ・ ・ ・ ・ P 1
3 部活動の現状	・ ・ ・ ・ ・ P 2
4 部活動の課題	・ ・ ・ ・ ・ P 8
5 基本方針とねらい及び目標	・ ・ ・ ・ ・ P 9
6 施策・事業体系	・ ・ ・ ・ ・ P 11
7 施策・事業（重点プログラム）	・ ・ ・ ・ ・ P 12

参考資料

部活動におけるこれまでの取組	・ ・ ・ ・ ・ P 19
平成27年度部活動奨励事業費について	・ ・ ・ ・ ・ P 22

1 「かながわ部活ドリームプラン 21 versionⅢ」策定の趣旨

平成 11 年 3 月にスポーツ推進審議会から示された「学校の運動部活動の活性化と今後のあり方について」を踏まえ、これまで県教育委員会では、運動部活動を活性化するための様々な取組を行ってきました。

また、文化部活動についても、平成 14 年度に全国高等学校総合文化祭を本県で開催したことを契機に、県高等学校文化連盟の組織強化や各学校の文化部活動の奨励に取り組んできたところです。

平成 19 年度に「かながわ部活ドリームプラン 21」を、平成 23 年度に「かながわ部活ドリームプラン 21 versionⅡ」を策定しました。運動部活動だけでなく文化部活動も合わせて、参加促進や競技力・表現力向上などを目指して、地域や民間企業・団体などと連携・協働した取組により、入部率を着実に増やすなど一定の成果を上げてきました。

部活動は、平成 20 年 3 月告示中学校学習指導要領、平成 21 年 3 月告示高等学校学習指導要領及び特別支援学校学習指導要領の総則に、「学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。」と示され、これまでも増して様々な教育効果が期待されています。

また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定したことにより、県民のスポーツへの関心が高まる中で、運動部活動による選手育成が期待されるとともに、ジュニア期からの一貫指導体制の整備が求められています。

これらのことを踏まえ、「かながわ部活ドリームプラン 21 versionⅡ」の計画期間満了に伴い、生徒の学校生活をより一層充実していくために、計画期間を平成 27 年度から令和 2 年度までとする「かながわ部活ドリームプラン 21 versionⅢ」を策定しました。

2 部活動の役割

部活動は、学級や学年の枠を超えて共通の興味・関心を持つ生徒たちが、自主的・自発的な参加により組織され行われるものであり、スポーツや文化及び科学等に親しむことで、個性の伸長が図られるとともに、自主性や協調性、責任感、連帯感などが養われ、互いに協力し友情を深めるといった好ましい人間関係の形成にも資するものです。

また、学校の授業などでは得られない貴重な体験ができるとともに、より高い技能や知識の習得を目指して努力することにより、充実感や達成感が味わえ、豊かな学校生活を送ることができます。さらに、仲間と切磋琢磨することで社会性も養え、生徒の「生きる力」を育むことができます。

3 部活動の現状

(1) 入部率の状況

公立中学校の運動部入部率（図1-1）は、男子は70%を越えています、女子は50%台です。県立高等学校の運動部入部率（図1-2）は、男子は50%を越えています、女子は30%台と低い状況です。

公立中学校の文化部入部率（図1-3）は、女子は30%台と低い状況ですが、男子は10%以下とさらに低い状況です。県立高等学校の文化部入部率（図1-4）は、女子は30%台、男子も10%台とともに低い状況です。

県立高等学校の入部率（図1-5）は、平成18年度と平成26年度を比較すると9.1ポイントも増加していますが、ここ数年は微増傾向に留まっています。さらに、公立中学校と県立高等学校の入部率を比較すると、全体の入部率は中学校の方が高等学校より高い状況です。これは、高等学校では、アルバイトや塾等により部活動の時間を確保することができない生徒が相当数おり、入部率が減少する要因の一つとして考えられます。また、文化部の入部率は男女ともに中学校よりも高等学校の方が高い状況です。これは、高等学校には様々な文化部があり、生徒それぞれの興味・関心に応じて部活動に取り組むことができるため、中学校で運動部に入部していた生徒の一部が文化部に入部しているものと考えられます。

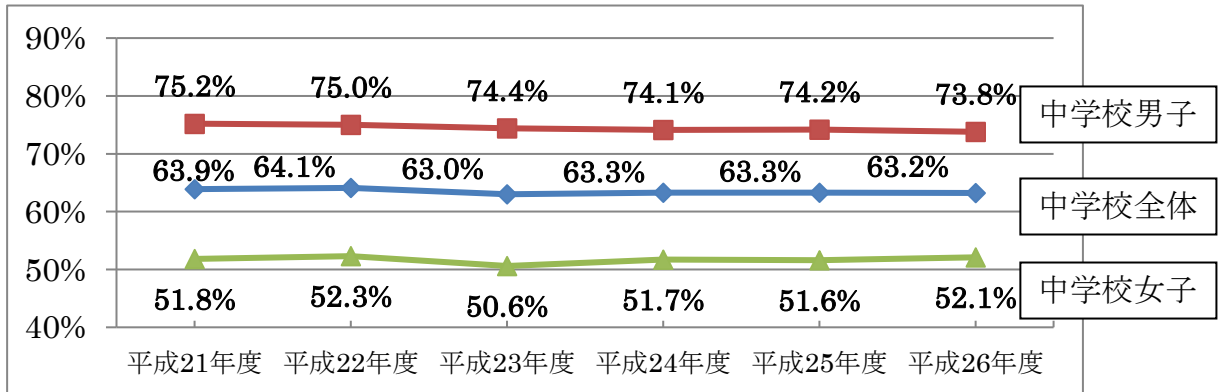


図1-1 公立中学校運動部活動入部率の推移(入部者数/在籍者数)

県公立中学校運動部活動調査(県中学校体育連盟)

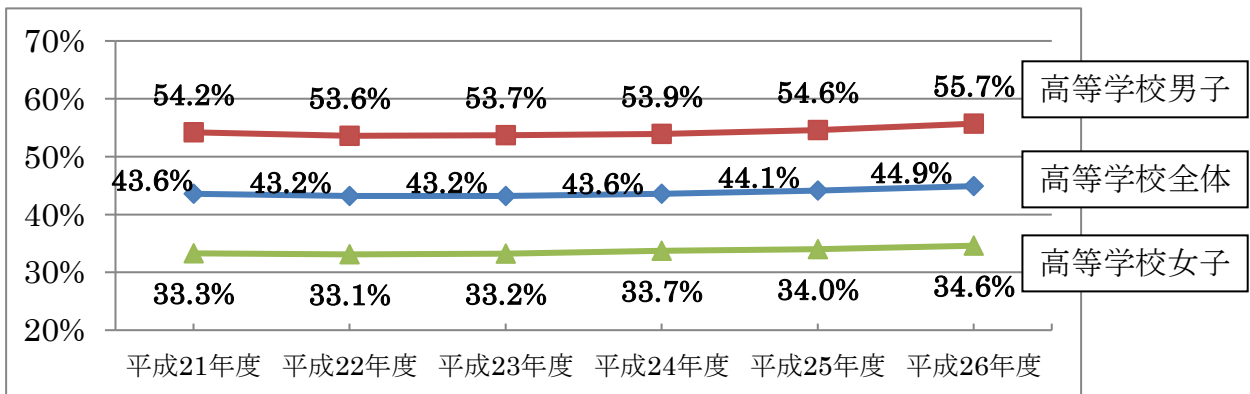


図1-2 県立高等学校運動部活動入部率の推移(入部者数/在籍者数)

県立学校部活動基本調査(県保健体育課)

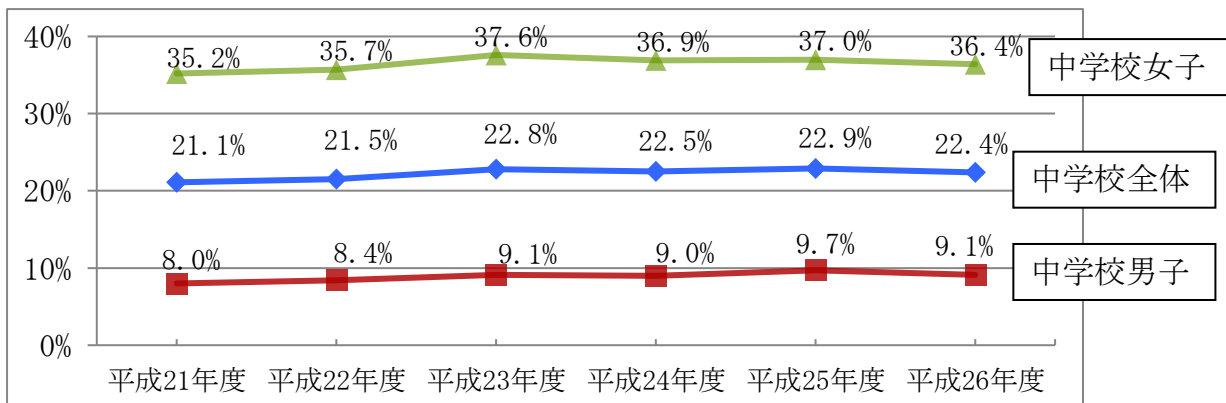


図 1 - 3 公立中学校文化部活動入部率の推移(入部者数/在籍者数)

県公立中学校運動部活動調査(県中学校体育連盟)

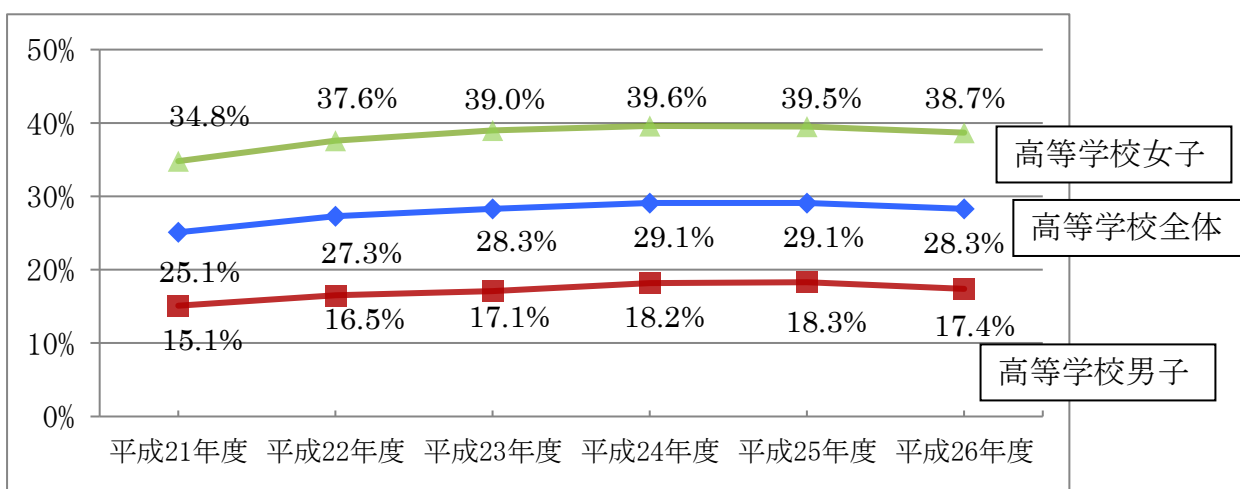


図 1 - 4 県立高等学校文化部活動入部率の推移(入部者数/在籍者数)

県立学校部活動基本調査(県保健体育課)

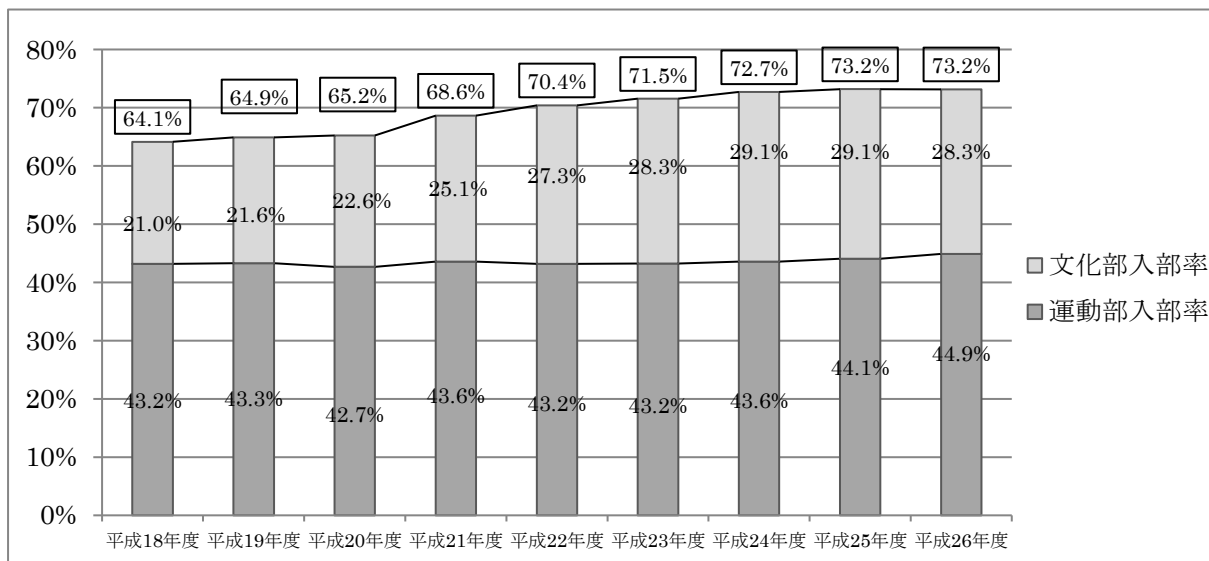


図 1 - 5 県立高等学校部活動入部率の推移(入部者数/在籍者数)

県立学校部活動基本調査(県保健体育課)

(2) 生徒の満足度状況

中学校・高等学校の運動部で活動している生徒に「運動部の活動が楽しいか」(図2)をたずねたところ、中学校、高等学校ともに「とても楽しい」「楽しい」を合わせると約86%を占めています。一方、「どちらでもない」を含め「楽しくない」「あまり楽しくない」と否定的な意見が約14%を占めており、運動部活動に楽しく取り組めていない生徒が一部見られます。

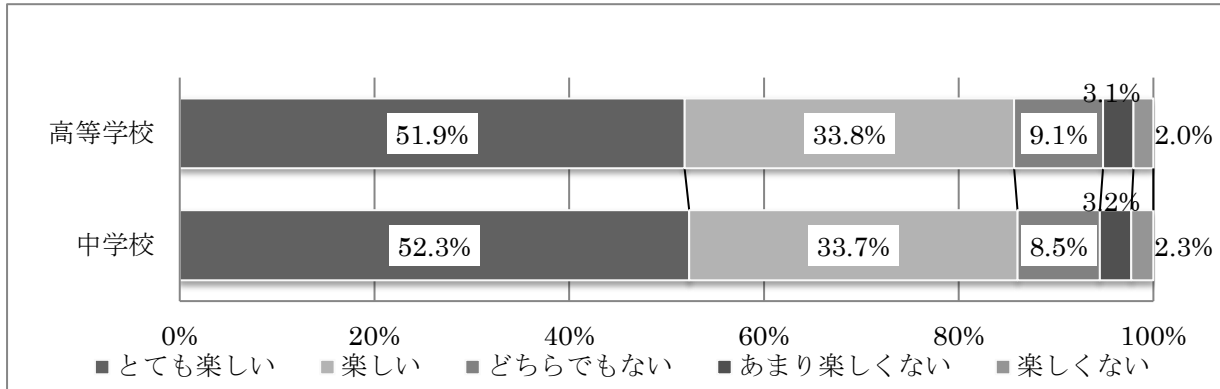


図2 「あなたは、運動部の活動が楽しいですか。」

平成25年度中学校・高等学校生徒のスポーツ活動に関する調査報告書(県保健体育課)

(3) 運動部活動における負傷状況

県立高等学校の運動部活動で負傷した生徒のうち、平成25年度に日本スポーツ振興センターから災害給付金を支給された数(図3)は、3,619件あり、その負傷は、骨折、捻挫、挫傷打撲などがあります。これは、高等学校の運動部活動は、高い技術や強靱な体力を身に付けようと厳しい練習に取り組むことから、負傷する生徒が多く、中には骨折や靭帯損傷など、長期にわたって活動から遠ざかる大きな負傷もあります。

種目	骨折	捻挫	脱臼	挫傷打撲	靭帯損傷	挫創	切創	刺傷	割傷	裂創	擦過傷	熱傷	歯牙破損	計
水泳	4	3	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
器械体操	11	15	6	13	4	2	0	0	0	0	0	0	0	51
陸上競技	39	50	2	38	6	10	0	1	0	1	0	0	1	148
球技	903	794	165	842	252	102	16	4	3	17	11	2	24	3,135
武道等	33	40	4	27	6	4	3	0	0	0	0	1	3	121
その他	26	62	7	43	6	2	0	2	0	0	2	0	2	152
合計	1,016	964	187	965	274	120	19	7	3	18	13	3	30	3,619

図3 県立高等学校における負傷一覧

平成25年度日本スポーツ振興センター集計資料

(4) 指導者の配置状況

本県における教員の平均年齢の推移（図4-1）は、公立中学校、県立高等学校とともに、平成21年度より年々若くなっており、教職員経験年数が少なく部活動指導経験も浅い顧問教員が増えています。

公立中学校の専門的指導者(※)の割合（図4-2）は、軟式野球、サッカー、バスケットボール、相撲、陸上競技の順に多い状況です。県立高等学校の専門的指導者の割合（図4-3）は、硬式野球、バスケットボール、サッカー、陸上競技、バレーボールの順に多く、8割を超えています。県立高等学校には、部活動インストラクター等を配置するなどしており、公立中学校と比べて専門的指導者が配置されている割合は高いものの、専門的に指導できる教員が十分に配置されているとはいえない状況です。また、専門的技術指導のできる顧問教員が不足している（図4-4）と思っている（「ややそう思う」を含む）校長、教員は、80%を超え、保護者も50%を超えています。

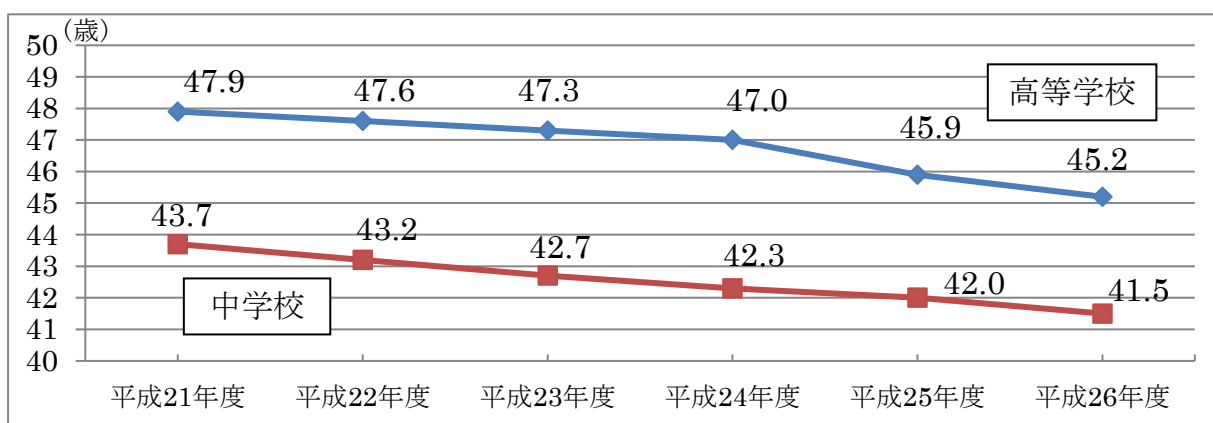


図4-1 本県における教員の平均年齢の推移（中学校・高等学校）

県教職員人事課調べ

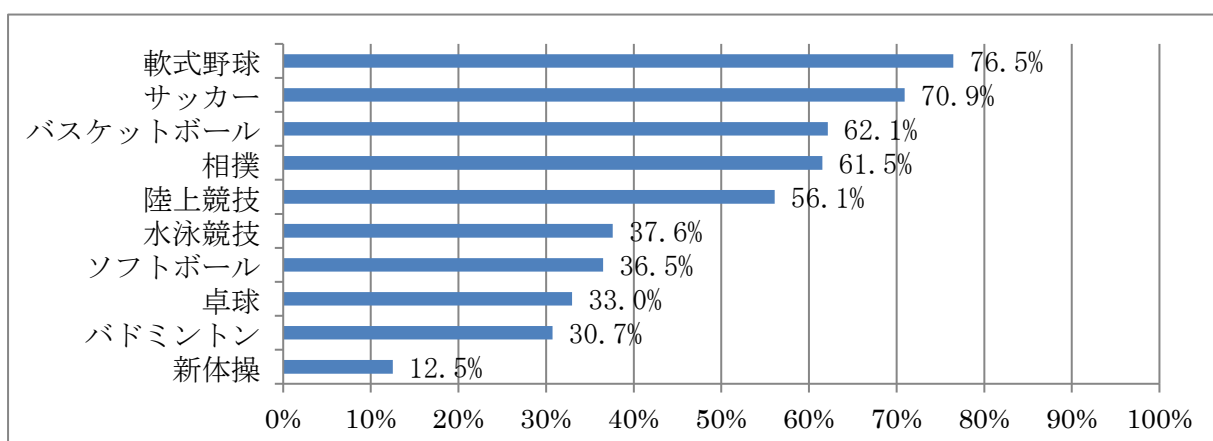


図4-2 平成26年度公立中学校の専門的指導者配置状況

県公立中学校運動部活動調査(県中学校体育連盟)

※専門的指導者・・・自分自身がその種目の競技を経験している者。または、競技経験がなくても、指導者として経験がある者。

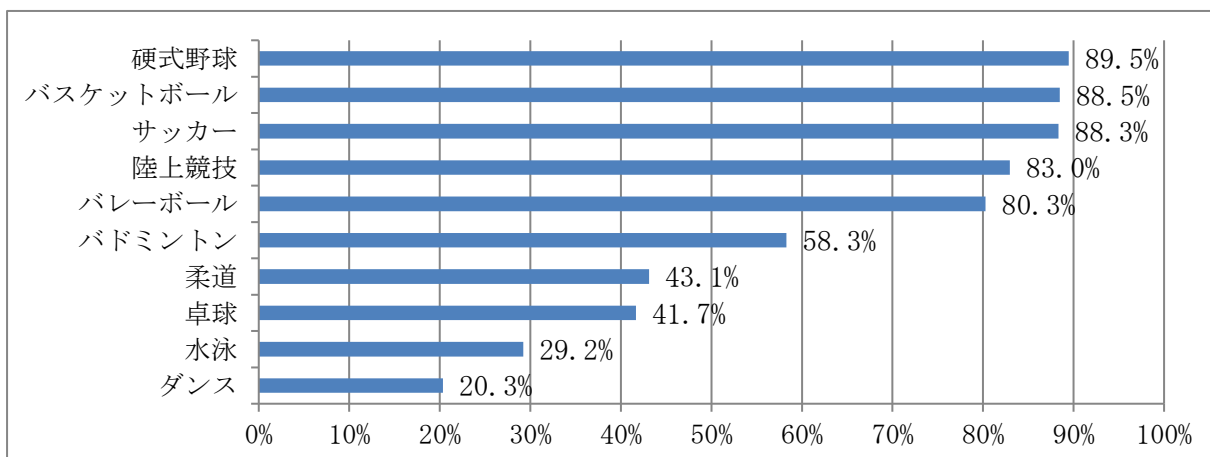


図 4-3 平成 26 年度県立高等学校の専門的指導者配置状況

県立学校部活動基本調査(県保健体育課)

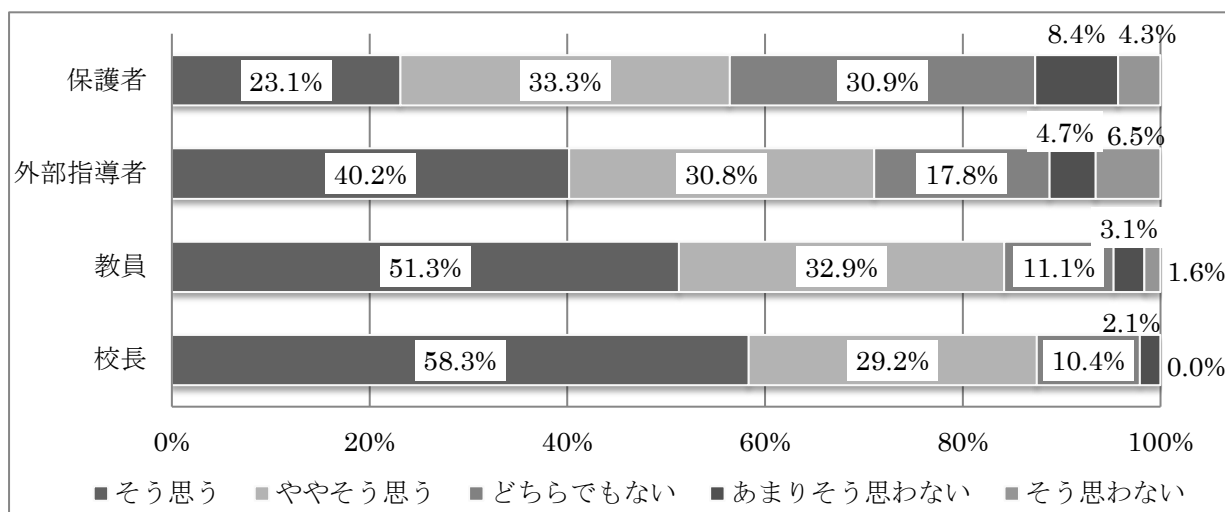


図 4-4 「専門的技術指導のできる顧問教員が不足している。」

平成 25 年度中学校・高等学校生徒のスポーツ活動に関する調査報告書(県保健体育課)



(5) 運動部活動の意義

中学校、高等学校ともに、「体力を維持・向上したい」「スポーツそのものを楽しみたい」「勝つよろこびを味わいたい」「技術やルールの基本をしっかりと身につけたい」について、「そう思う」と答えている割合が高くなっています。

このように、体力を高めることや技能・記録を伸ばすこと、スポーツを楽しむこと、仲間をすることなど、部活動に取り組んでいる生徒の目的や目標は様々です。

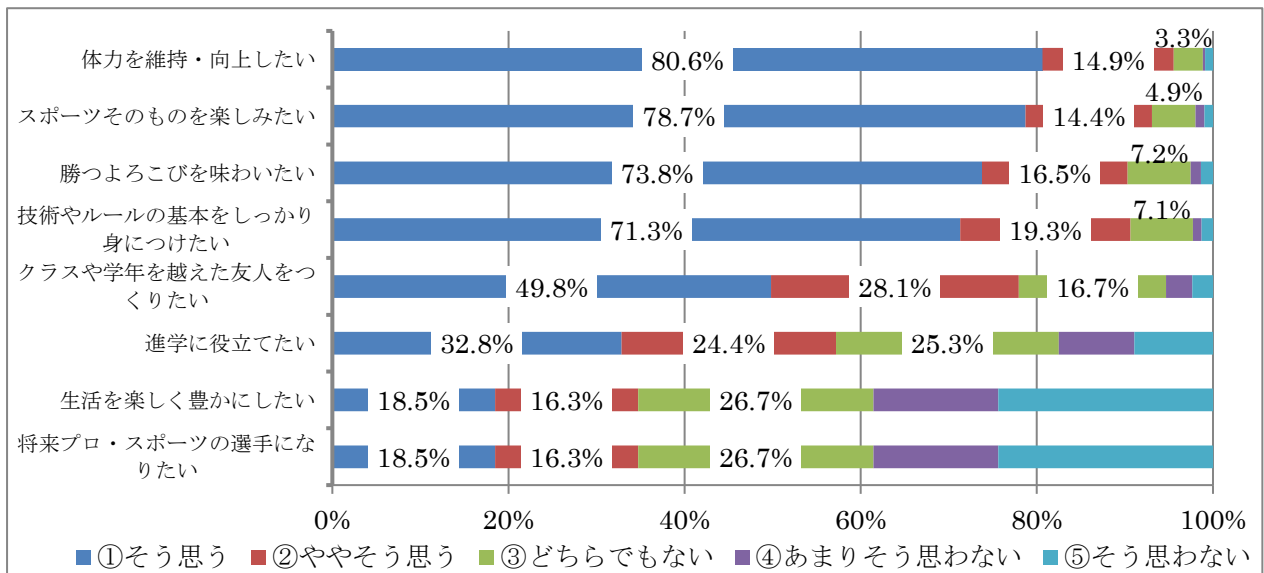


図5-1 「運動部活動の意義についてどう思いますか。」(中学校)

平成25年度中学校・高等学校生徒のスポーツ活動に関する調査報告書(県保健体育課)

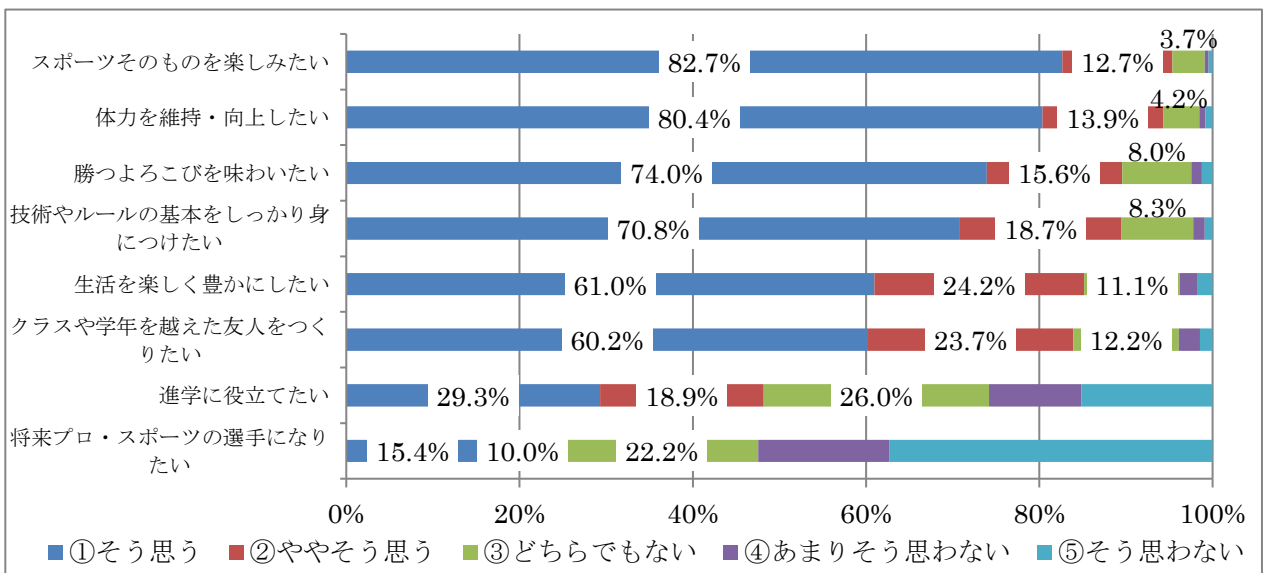


図5-2 「運動部活動の意義についてどう思いますか。」(高等学校)

平成25年度中学校・高等学校生徒のスポーツ活動に関する調査報告書(県保健体育課)

4 部活動の課題

(1) 部活動の充実

入部率は、ここ数年、運動部活動・文化部活動ともに微増傾向にありますが、充実した活動ができていない生徒が一部いることから、より一層生徒が主体となる活動を促す指導が求められます。

また、けがにより活動を継続できない生徒もいることから、安全・安心な部活動を保障するため、けがを未然に防止するためのトレーニング指導等が求められます。

(2) 指導者の確保・育成

部活動指導経験の浅い顧問教諭が増加していることや部活動を専門的に指導できる指導者が不足している状況が見られることから、顧問教諭の資質向上及び外部指導者の活用、学校間や地域との連携が求められます。

(3) 多様化する生徒のニーズへの対応

勝つことや競技力・表現力の向上のみを目的とするのではなく、活動そのものを楽しむことや仲間と一緒に楽しむことを目的とするなど、多様化する生徒のニーズに対応した部活動が求められます。



5 基本方針とねらい及び目標

社会情勢の変化と公立中学校及び県立高等学校における部活動の現状及び課題を踏まえ、「かながわ部活ドリームプラン 21 versionⅢ」における〈基本方針〉〈ねらい〉及び〈目標〉を定めました。

〈基本方針〉

自主的・自発的な部活動を通じた人づくり

部活動は、スポーツや文化などに興味・関心をもつ同好の生徒が、共通の目的をもって自主的・自発的な参加により行われるものです。そして、技術や記録の向上に切磋琢磨したり、仲間と一緒に活動したりすることにより、協調性や責任感及び連帯感を養うとともに、互いに協力し合って友情を深めるといった好ましい人間関係の形成に大いに役立ちます。こうしたことから、「自主的・自発的な部活動を通じた人づくり」を目指します。

〈ねらい その1〉

参加した誰もが満足できる部活動

部活動は、生徒一人ひとりの興味・関心に応じて行われるものです。そこで「競技力の向上や表現力を高めることを目的として行うもの」「仲間と一緒に楽しむことを目的として行うもの」など、それぞれのニーズに応じた誰もが満足できる部活動を目指します。

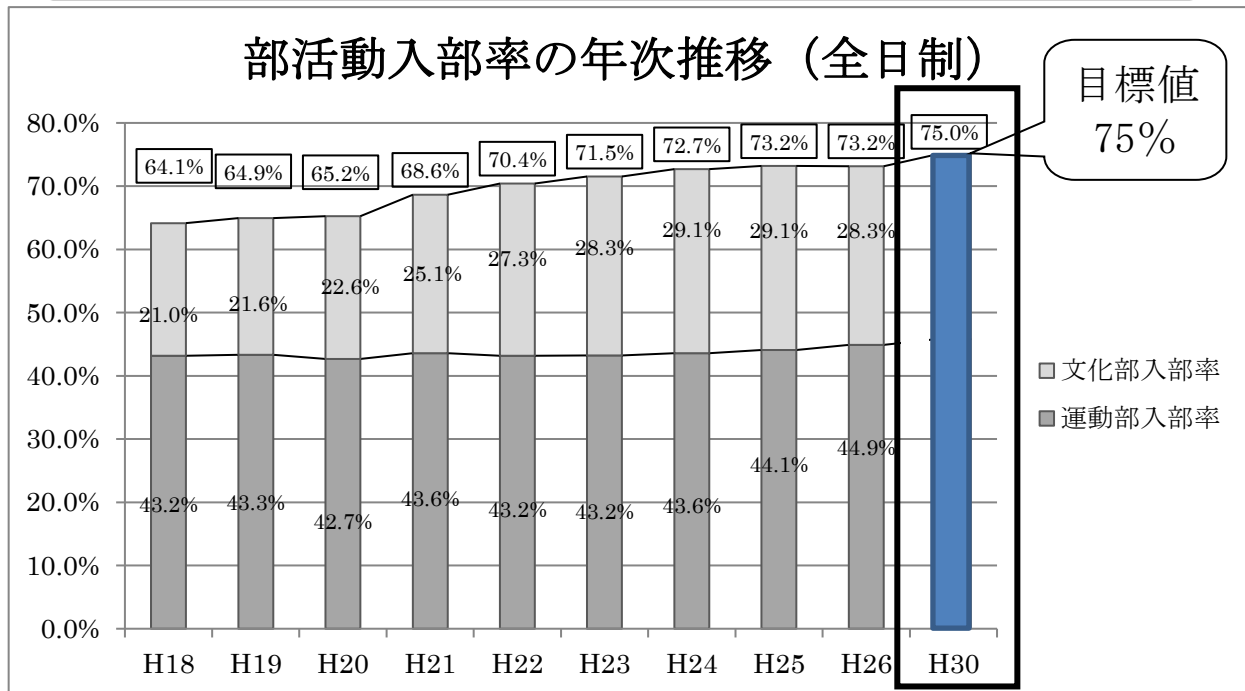
〈ねらい その2〉

より多くの生徒が参加できる部活動

部活動は、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意することが学習指導要領に明確に示されたことから、スポーツや文化等の活動への参加を通じて、豊かな学校生活を送れることを目指し、一人でも多くの生徒が参加できる部活動を目指します。

<目標>

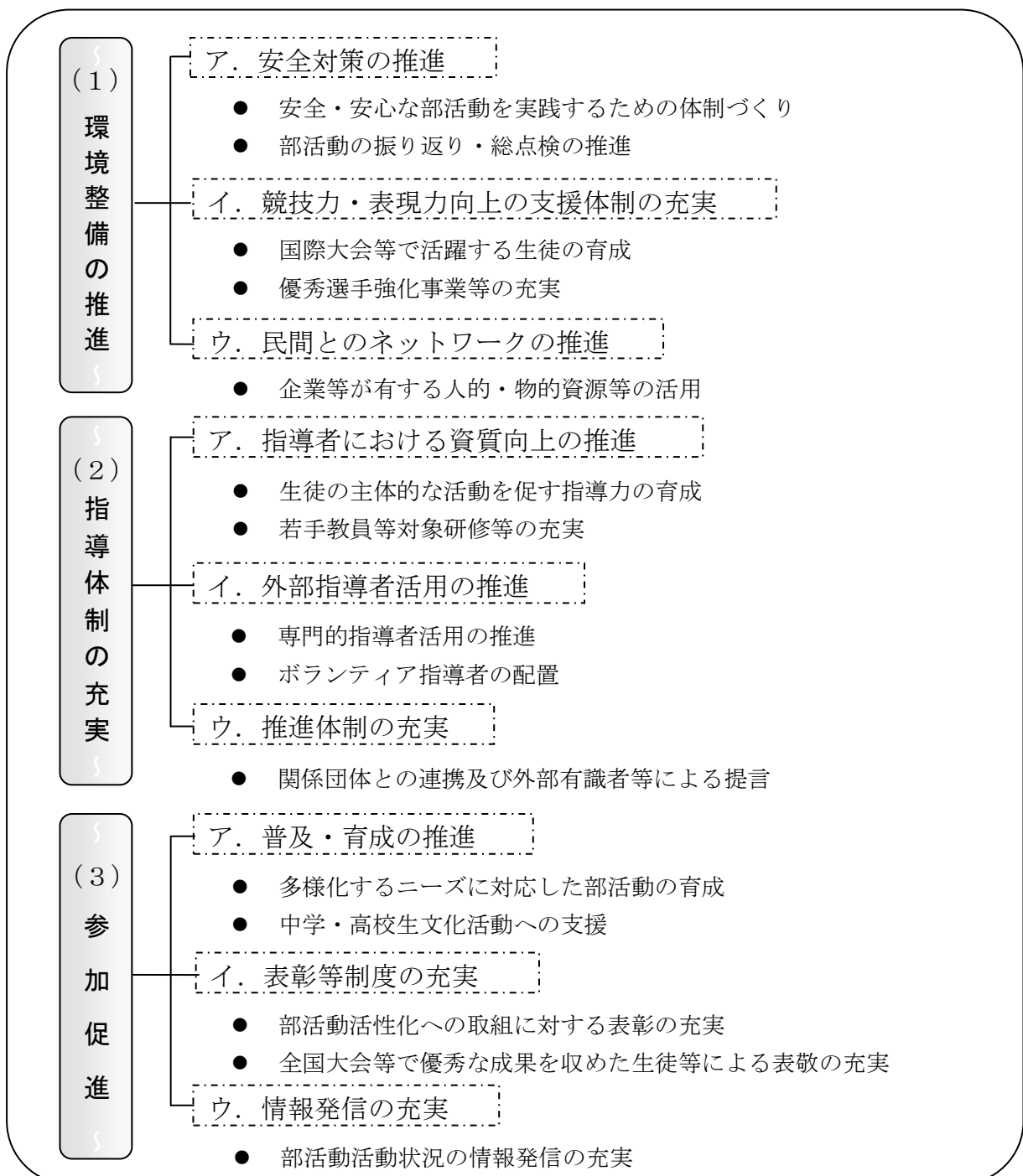
平成 30 年度の部活動(運動部・文化部)の入部率を
75%(4人に3人)以上にします。



6 施策・事業体系

「かながわ部活ドリームプラン 21 versionⅢ」の基本方針の下で、「ねらい」と「目標」を達成するため、「環境整備の推進」「指導体制の充実」「参加促進」の3つの観点から施策・事業に取り組みます。

- 充実した部活動を行い、安全・安心な部活動を保障するため、学校関係団体や民間と連携・協働するなど、環境整備の推進に取り組みます。
- 指導者の確保・育成のため、指導者の資質向上を図る研修会等を実施するとともに、外部指導者を活用するなど、指導体制の充実に取り組みます。
- 多様化する生徒のニーズへ対応するため、新しいタイプの部活動や文化部活動への支援、部活動に取り組む生徒を表彰するなど、一人でも多くの生徒が部活動に入部するよう、参加促進に取り組みます。



7 施策・事業（重点プログラム）

（1）環境整備の推進 <生徒が主体的に取り組む部活動>

部活動は、個々の技能や記録等に関する目標や課題を、生徒自らが設定するとともに、その目標達成や課題解決に向けて、必要な方法や内容などについて考え、実践できるように指導することが大切です。なおかつ、生徒同士で、部活動の取り組み方や練習方法などについて話し合うなど、生徒の主体的な取組を育むことが重要です。

また、指導者は過去の実績や経験によるものだけでなく、科学的かつ合理的な理論に基づいて指導することが求められます。さらに、生徒の発達段階、技術レベルに合わせた指導により、卒業後も活動を継続できるよう心身ともに安全・安心な部活動を保障することも重要です。

そこで、生徒それぞれの興味・関心や体力、技術等に応じて、自主的・自発的に部活動が楽しめるような環境整備を推進するとともに、けがや事故を未然に防止し、安全・安心な活動を行うための指導体制をつくり、適切な練習方法を確立し、指導法の充実に努めます。加えて、活動の場を保障する施設・設備の整備にも取り組みます。

さらには、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、「する」「観る」「支える」といった視点に立ち、アスリートの育成や大会を支えるボランティア等を養成するため、スポーツ関係団体や企業・大学・専門学校・NPO 等と連携・協働しながら生徒のニーズに対応した環境を整備します。

ア 安全対策の推進

（ア）施策の趣旨

部活動を実施するにあたり、自分や仲間の安全を守る態度や能力を育成するとともに、各自の技能レベルに応じて、安全で効果的な活動を行うことができるよう専門的指導者を派遣するなど、安全対策を推進します。

（イ）事業内容

部活動安全対策支援事業

大会やコンクールにおいて、最高のパフォーマンスが発揮できるよう、アスレティックトレーナー等を拠点校に派遣し、科学的根拠に基づいた正しいトレーニングの実践等を行います。また、これらの指導者を活用し、教員を対象とした安全対策講習会を実施します。

かながわ部活の日

「部活の日」として「振り返り、再出発」の日となる部活動総点検を行うとともに、各学校の実態に応じて「入部奨励、部活動振興、交流の日」を設定し、部活動の活性化を推進します。

イ 競技力・表現力向上の支援体制の充実

(ア) 施策の趣旨

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会をはじめとする国際大会等に、一人でも多くの神奈川県ゆかりの選手を輩出するため、専門的指導者を派遣し、定期的な強化練習会を実施するなど、競技力・表現力向上を目指した支援体制の充実を図ります。

(イ) 事業内容

部活動強化支援事業

特定の種目ごとに強化拠点校を定め、テクニカルコーチ等の専門的指導者を派遣し、定期的な強化練習会を行うことで、私立学校や中学生も含めて才能ある生徒を発掘するとともに、競技力・表現力の向上を目指します。

学校団体への事業補助

県中学校体育連盟や県高等学校体育連盟、県中学校文化連盟、県高等学校文化連盟等が行う、普及・育成事業や優秀選手強化事業、県総合体育大会事業、文化フェスタ、県高等学校総合文化祭等へ助成します。

ウ 民間とのネットワークの推進

(ア) 施策の趣旨

県教育委員会と企業・大学・専門学校・NPO 等が連携・協働し、企業等が有する人的・物的資源を活用することで、部活動を支援します。

(イ) 事業内容

企業等連携協議会 (Kanagawa Dream-Assist Community 通称 ケイダック KDAC)

実業団チームの監督・コーチ・選手等を講師とした運動部活動講習会や企業等の施設を利用した文化部活動の実施のほか、企業等がもつノウハウを活用した講習会を行います。

(2) 指導体制の充実 <学校組織全体で取り組む部活動>

部活動は、学校教育の中で果たす意義や役割を踏まえて、学習指導要領において、「学校教育の一環として教育課程との関連が図られるよう留意すること」と明確に示されました。日常の運営や指導内容・指導方法については、生徒のバランスの取れた心身の発達や豊かな学校生活が送れるよう、保護者や外部指導者等と情報共有する中で築き上げていくことが望まれます。

また、中学校・高等学校の部活動においては、生涯にわたってスポーツや文化的な活動に親しむ資質や能力を身に付けるとともに、競技力や表現力も大きく伸びる可能性を秘めた重要な時期であることから、指導者においては知識や技能だけでなく、生徒の心身の健康安全管理面においても、適切に指導することが必要です。

さらには、部活動における体罰や暴言等の不適切な指導が未だに根絶していないことから、体罰等と厳しい指導の違いを理解するとともに、適切な指導方法を身に付けることが大切です。

そこで、指導者の資質の向上はもちろんのこと、積極的に地域の指導者を活用するなど指導体制の充実を図ります。

ア 指導者における資質向上の推進

(ア) 施策の趣旨

生徒の主体的な活動を促す指導力を育成することで、生徒一人ひとりが自らの適性や興味・関心等をより深く追及していくことができるよう、指導者の資質向上を図ります。

(イ) 事業内容

部活動指導者の資質向上研修講座

部活動本来の意義を理解し、生徒が自主的・自発的に取り組むことができる部活動を運営するための方法を学ぶなど、指導者としての資質向上を図るための研修会を実施します。

部活動マネジメント研修講座

指導経験の浅い教員やリーダーとなる生徒等を対象に、部活動運営のあり方について学ぶとともに、生徒のリーダーシップを育成するための研修会を実施します。

イ 外部指導者活用の推進

(ア) 施策の趣旨

生徒の多様な部活動のニーズに対応し、活動効果をより一層高めるために、

専門的な指導力をもつ地域の指導者を派遣するとともに、企業・大学・専門学校・NPO等と連携し、ボランティア指導者を派遣するなど、外部指導者の活用を推進します。

(イ) 事業内容

部活動インストラクター活用事業

各学校の実態に応じて、生徒の部活動のニーズに対応するため、専門的な指導や安全な活動を確保するため、顧問と連携して部活動を補助する「部活動インストラクター」を配置します。

部活動支援ボランティア活用事業

教員志望で、部活動指導に熱意のある大学生や企業等連携協議会に加盟する企業等の社員を、部活動指導のボランティアとして派遣します。

部活動安全対策支援事業（再掲）

部活動強化支援事業（再掲）

ウ 推進体制の充実

(ア) 施策の趣旨

部活動に対する今日的課題や多様化する生徒のニーズに対応するため、学校関係団体や学識経験者等で組織する会議等により、推進体制の充実を図ります。

(イ) 事業内容

部活動活性化推進協議会

部活動のあり方や活性化推進策の具体化について、関係団体相互で情報共有する中で、学識経験者等からの助言等をもとに、協議します。



(3) 参加促進 <多様な志向に応じた部活動>

部活動は、生徒一人ひとりの興味・関心に応じて行われるものであることから、「技能を高めたい」、「良い結果を出したい」、「体力を向上したい」、「有意義な時間を過ごしたい」、「仲の良い友達をつくりたい」など、生徒の様々な目的や目標に応じた活動の場を設定することが大切です。

学校においては、「競技力・表現力向上志向」、「レクリエーション志向」、「健康志向」、「複数活動志向」など多様な選択肢の部活動を設置するなど、大会やコンクールの結果や成績等を追求するだけでなく、生涯にわたってスポーツや文化的な活動に親しむ基礎を培うことや生徒の心身の調和のとれた発達を促すことができるよう目標や指導方針を設定することが必要です。

そこで、誰もが参加しやすい新たなタイプの部活動を設置するほか、部活動活性化につながる取組に対し表彰するなどして、一人でも多くの生徒がスポーツや文化的な活動を通じて豊かな学校生活を送れるよう、部活動の参加を促進します。

ア 普及・育成の推進

(ア) 施策の概要

様々なニーズを持った生徒が、一人でも多く部活動に参加することができるよう、運営方法、指導体制、活動内容等についての新たな取組を支援するなど、部活動の普及・育成を推進します。

(イ) 事業内容

新タイプ部活動支援事業

仲間との交流や健康志向にも対応するなど、生徒のニーズを捉えた新しいタイプの部を設置し、多くの生徒が部活動に積極的に参加することができるようにします。

中学・高校生文化活動支援事業

中学・高校生の文化部活動の活性化を目指して、神奈川県高等学校総合文化祭や文化フェスタ等のイベントを開催し、中学・高校生の文化活動に係る相互交流を図るとともに、発表機会が充実するよう支援します。

イ 表彰等制度の充実

(ア) 施策の概要

全国大会等で優秀な成果を収めたり、部活動の活性化に繋がる取組を行った学校等を表彰するとともに、表敬の場を設けることで、より一層部活動の活性化を推進します。

(イ) 事業内容

かながわ部活ドリーム大賞

参加促進、競技力・表現力の向上、活発な活動実践や地域連携に貢献した学校・団体や個人に対して、神奈川県教育委員会が表彰し、部活動の活性化を推進します。

かながわ部活ドリーム表敬

全国大会優勝・準優勝校及び個人、またはそれに準ずる成果を収めた学校及び個人による知事及び教育長への訪問の機会を設け、その栄誉を称えることで、部活動の活性化を推進します。

ウ 情報発信の充実

(ア) 施策の概要

各学校の部活動に係る様々な情報を発信することで、部活動の参加を促進します。

(イ) 事業内容

ホームページ掲載

県立学校の部活動に係る活動状況を、県のホームページに掲載することで、部活動の活性化を推進します。



參考資料

部活動におけるこれまでの取組

(1) 運動部活動活性化推進事業（平成12年度～18年度）

平成11年3月、スポーツ推進審議会から示された「学校の運動部活動の活性化と今後のあり方について」に基づき、運動部活動を活性化するための様々な取組を実施しました。

平成12～15年度の主な取組	平成16～18年度の主な取組
<p>【部員不足や多様化への対応】</p> <p>1 学校間・地域連携モデル校・協力 (平成12・13年度)</p> <p>(1) 学校間連携</p> <p>(2) 地域連携</p> <p>2 「地域ぐるみで育む運動部活動」実践研究</p> <p>(1) ファンリーグ(トーナメント)の開催</p> <p>(2) 複数型・複合型運動部活動</p> <p>(3) 一流選手による講習会</p> <p>【土曜・日曜日の活動等のあり方】</p> <p>完全学校週5日制における土曜・日曜日の活動や大会のあり方について方向性を示す。</p> <p>【指導者対策の充実】</p> <p>1 顧問教員の資質向上</p> <p>2 外部指導者の活用拡大と資質向上</p> <p>【部活動時の事故防止と安全管理】</p> <p>1 運動部活動等安全対策事業</p> <p>2 運動時の事故防止の手引き作成・配付</p> <p>【学校体育団体への支援】</p> <p>1 競技力向上対策事業補助</p> <p>2 学校体育団体運営費補助</p> <p>【保護者への協力要請】</p> <p>P T A等保護者団体への協力要請</p>	<p>【運動部活動活性化推進事業】</p> <p>1 ファンリーグ開催推進事業</p> <p>2 部活動に入ろうキャンペーン</p> <p>3 地域連携推進事業</p> <p>【普及・育成・強化事業】</p> <p>1 普及・育成事業の支援</p> <p>(1) 県中学校体育連盟</p> <p>ア 基礎基本教室</p> <p>イ 種目別育成大会</p> <p>(2) 県高等学校体育連盟</p> <p>ア 地区(無料)大会</p> <p>イ 新人・中高合同練習会</p> <p>2 優秀選手強化事業の支援</p> <p>【指導者対策事業】</p> <p>1 運動部活動外部指導者活用事業 (スポーツエキスパート活用事業)</p> <p>2 運動部活動指導者の資質の向上</p> <p>3 部活動支援学生ボランティア</p> <p>【運動部活動等安全対策事業】</p> <p>1 応急手当講習会</p> <p>2 トレーナー活用事業</p>

(2) かながわ部活ドリームプラン 21 (平成 19 年度～22 年度)

平成 19 年度より、生徒の部活動参加を促進する取組や参加する生徒が切磋琢磨しながら自らの希望をかなえられるような取組を推進するため、文化部活動も含めた「かながわ部活ドリームプラン 21」を策定し 5 つの戦略プロジェクトにより推進しました。

< 5 つの戦略プロジェクト >

1	「みんなが主役」 かがやきプロジェクト	①「かながわ部活ドリーム大賞」県教育委員会教育長表彰 ②「かながわ部活ドリーム表敬」の実施(運動部・文化部) ③県中学総体「出場証」の交付
2	「元気な学校」 はつらつプロジェクト	④「かながわ部活の日」 ⑤「部活さがし・部活えらび」中学生向けインフォメーション
3	「切磋琢磨」 らいばるプロジェクト	⑥「学校の特色となる部活動」実践事業 ⑦「切磋琢磨する部活道※」重点校 ⑧「部活サポートシステム」モデル校
4	「協働・連携」 すくらむプロジェクト	⑨部活動エキスパート指導者派遣事業 ⑩部活動インストラクター活用事業(運動部・文化部) ⑪運動部活動地域指導者活用事業(市町村：公立中学校) ⑫部活動支援学生ボランティア活用事業(協定大学との連携) ⑬部活動活性化推進協議会
5	「人材育成」 ふれあいプロジェクト	⑭かながわ部活ドリーム講習 ⑮運動部活動指導者研修会 ⑯文化部活動専門家講演事業 ⑰高校生文化活動支援事業 ⑱部活動指導のガイドラインの作成

※部活道…それぞれの「道」を究める実践ということから、「部活動」を「部活道」としています。

(3) かながわ部活ドリームプラン 21 versionⅡ (平成 23 年度～26 年度)

「かながわ部活ドリームプラン 21」の理念を継承するとともに、「競技・表現力向上」「地域・企業等連携」「参加促進」の三本の柱により関係団体とのネットワークを活用して推進しました。

PROJECT 1 「自己を磨く」(競技・表現力向上)プロジェクト

★ 自己を磨くために、生徒・指導者の競技・表現力を高める。

<p>【生徒支援対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① かながわ部活ドリーム表敬の実施 ② 「切磋琢磨する部活道」実践校 ③ かながわ部活ドリーム大賞 ④ 部活動等夢のかけ橋キャンペーン ⑤ 高体連優秀選手強化事業補助 ⑥ 総合文化祭開催補助 ⑦ 中体連優秀選手強化事業補助 ⑧ かながわ部活ドリーム講習会 	<p>【指導者支援対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑧ かながわ部活ドリーム講習会<再> ⑨ 部活動エキスパート指導者派遣事業 ⑩ 部活動インストラクター活用事業
---	---

PROJECT 2 「社会と関わる」(地域・企業等連携)プロジェクト

★ 学校と地域等と連携した取組を通し部活動の活性化を図る。

<p>【生徒支援対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ③ かながわ部活ドリーム大賞<再> ④ 部活動等夢のかけ橋キャンペーン<再> ⑧ かながわ部活ドリーム講習会<再> ⑪ 「地域で育む部活道」実践校 	<p>【指導者支援対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑧ かながわ部活ドリーム講習会<再> ⑨ 部活動エキスパート指導者派遣事業<再> ⑩ 部活動インストラクター活用事業<再> ⑫ 部活動支援ボランティア事業 ⑬ 運動部活動地域指導者活用事業 ⑭ 部活動活性化推進協議会
---	---

PROJECT 3 「部活動に参加する」(参加促進)プロジェクト

★ 生徒の多様なニーズに対応できる柔軟な部活動運営を推進し、部活動への参加促進を図る。

<p>【生徒支援対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ③ かながわ部活ドリーム大賞<再> ④ 部活動等夢のかけ橋キャンペーン<再> ⑧ かながわ部活ドリーム講習会<再> ⑮ かながわ部活の日 ⑯ 「みんなが入部する部活道」実践校 ⑰ 高体連普及育成事業補助 ⑱ 高校生文化活動支援事業 ⑲ 中体連普及育成事業補助 ⑳ 県中学総体出場証の贈呈 ㉑ 「部活さがし・部活えらび」 	<p>【指導者支援対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑧ かながわ部活ドリーム講習会<再> ⑩ 部活動インストラクター活用事業<再> ⑫ 部活動支援ボランティア事業<再> ⑬ 運動部活動地域指導者活用事業<再>
---	---

<再>…再掲

平成 27 年度部活動奨励事業費について

【部活動活性化推進事業費】 12,730 千円

1 部活動安全対策支援 (9,344 千円)

- 部活動安全対策支援事業 (派遣校 16 校)
アスレチックトレーナーを派遣し、フィジカルトレーニング指導やケガへの施術等を行う。

2 部活動強化支援 (2,096 千円)

- 部活動強化支援事業 (拠点校 8 校)
国際大会等に神奈川ゆかりの選手等を輩出するため、専門指導者を派遣し、競技力や表現力を向上する。

3 部活動指導者資質向上支援等 (590 千円)

- 部活動指導者の資質向上研修講座 (3 回)
適切な部活動運営に必要な知識・指導法を研修し、指導力向上を図る。
- 部活動マネジメント研修講座 (2 回)
指導経験の浅い教員やリーダーとなる生徒等にとって必要な知識を学ぶ研修会を実施する。
- 部活動支援ボランティアの活用事業
部活動指導のボランティアを派遣する。
- 部活動活性化推進協議会
望ましい部活動のあり方を協議・検討し、より一層の活性化を図る。
- その他 (部活動担当者会議、かながわ部活ドリーム大賞他)

4 新タイプ部活動支援 (700 千円)

- 新タイプ部活動支援事業
多くの生徒が参加しやすい運動部を設置する。

5 その他

かながわ部活の日、企業等連携協議会、かながわ部活ドリーム表敬、ホームページ掲載

【学校体育振興対策費】 23,748 千円

1 県中学校体育連盟への補助 (3,178 千円)

中学校における運動部活動と連携、部活動の活性化と競技力向上を目指すなど、県中学校体育連盟が実施する事業に対し助成する。

2 県高等学校体育連盟への補助 (18,038 千円)

高等学校における運動部活動と連携、部活動の活性化と競技力向上を目指すなど、県高等学校体育連盟が実施する事業に対し助成する。

3 全国高等学校体育大会等対策費 (2,532 千円)

全国大会に出場する選手等に対し、統一ユニフォーム等を支給する。

【高校生文化活動支援事業費】 1,703 千円

1 部活動支援学生ボランティア事業費 (4 千円)

部活動指導のボランティアを派遣する。

2 かながわ部活ドリーム大賞運営経費 (103 千円)

部活動の活性化のための優れた取組を表彰する。

3 高校生の文化活動の周知・発表経費 (1,596 千円)

高校生の文化活動に係る相互交流機会の提供と成果を周知する。

かながわ部活ドリームプラン 21 versionⅢ

平成 27 年 10 月発行

発行 神奈川県教育委員会教育局
指導部保健体育課、高校教育課
〒231-8509 神奈川県横浜市中区
日本大通 33
電話 045-210-1111（代表）

かながわ部活ドリームプラン21 versionⅢ

シンボルマーク



■ 制作者

横浜国立大学教育人間科学部 教授 渡辺邦夫 氏

■ デザインの意図

このマークは、スポーツ系・文化系すべての部活動参加の喜びを、仲間と共に躍動する人間像として象徴しています。共に手をとる様は、相互理解と協調の精神を表し、部活動で得られる「人間関係の構築の素晴らしさ」を表現しました。